

南大東村 豊年祭実行委員会

交流
部門

開拓当初からの文化を豊年祭行事に活かしたふるさとづくり (平成28年度認定)



南大東村は、沖縄本島の約400km東方に位置し、明治33(西暦1900)年に東京都八丈島の開拓事業者、玉置半右衛門翁他23名の有志が、壮絶な孤島(ウファガリ島)に開拓の第一歩を標した島である。

本村は開拓以来サトウキビが村の基幹産業であり、大型機械による機械化一貫作業体系が確立され「サトウキビの島」ともいわれている。また、近年は輪作としてカボチャの生産も伸びている。

村には、東京都八丈島の風習と沖縄の伝統美が一つになったチャンプルー文化が根付いており、南大東村豊年祭は、神輿・山車・江戸相撲・沖縄角力・演芸などの奉納行事がにぎやかに行われ、豊年祭は老若男女がハッピーに鉢巻姿で神輿をかつぎ、山車を引き祭り太鼓を打ち鳴らし、村内を練り歩き豊年を祈願する。

中でも江戸相撲は八丈文化のひとつとして昔から受け継がれ、奉納相撲は祭りのメインイベントとなっている。

近年では、祭りの醍醐味と島の魅力を存分に味わってもらう「祭り体験」を企画し、島の魅力を都市住民に提供するなど、伝統文化を継承しつつ積極的交流活動が認めれることから「沖縄、ふるさと百選」に認定された。



サトウキビ作農業の機械化一貫作業体系



学童相撲



大東太鼓



幕内力士 16名



各団体から山車



体験滞在交流で観光客も参加